

## 挑戦せずして成功はない (野茂英雄)

校長 桐野 和之

皆さんは、プロ野球で活躍した野茂英雄選手を知っていますか。投手として独特な投げ方で有名な選手です。トルネード投法と言います。トルネードとは日本語で「竜巻」という意味です。背中を後ろまでひねる竜巻のような投げ方です。日本人メジャーリーガーの先駆者として活躍された人が野茂選手です。次のような言葉を彼は残しています。

「挑戦せずして成功はない。」

野茂選手は中学生の時から投手として、直球を強くするために、体を後ろまでひねって投げていました。甲子園の地区大会では、ベスト16まで勝ち残りました。卒業後、社会人野球の活躍を経て、史上最多のプロ野球チーム8球団からドラフトの指名があり、その中で近鉄に入団しました。1990年のデビューから4年続けて最多勝、最多奪三振を獲得し、活躍しました。1994年、肩を故障して活躍できませんでした。当時の監督がホームの矯正を強く求めていたので、任意引退をしました。そして、日本初のメジャーリーグへの挑戦を宣言。1995年、ロサンゼルス・ドジャースとマイナー契約。成功する保証もない世界に入るので、まさしくチャレンジとしか言いようがありません。野茂投手のトルネード投法は独特でしたので、メジャーリーガーも観客も驚かされました。投球に威力があり、次々と三振を奪っていききました。登板する日には、メジャーリーグに挑む野茂選手への期待感が大きく、日本国内だけでなく、全米でも注目されました。ロサンゼルス・ドジャースの観客動員数もテレビの視聴率も伸び、スタジアムには、寿司店や牛丼店ができ、「野茂マニア」という新語が生まれました。メジャーリーグ全体のニューヒーローになったのです。



ロサンゼルスドジャースに入団した年、新人王と最多奪三振のタイトルを獲得しました。1996年にはノーヒットノーランを達成。2001年には2度目のノーヒットノーランを達成。2005年6月には、日米通算200勝を達成しました。

メジャーリーグで初めて長期にわたって活躍した日本人として世界中の野球ファンに知られるようになり、彼を追って渡米する選手が増えました。松井選手やダルビッシュ選手からも尊敬されています。松井選手は「野茂選手がいなければ、ほとんどの選手はアメリカに行けなかった」と語っています。野茂選手は後に続く者たちの道標となりました。

以下は、メジャーリーガーへの道を切り開いた挑戦者の言葉です。

「挑戦すれば、成功もあれば失敗もあります。でも挑戦せずして成功はありません。何度言いますが、挑戦しないことには始まらないのです。自分自身の殻を破る。挑戦がすべてのスタートです。壁が立ちただかり、ひるむこともあります。でも、その行動の中に成功の種子があります。後は行動し続けること。ある時女神が微笑むまで行動し続けることです。」この言葉を聞いて皆さんも、私もふだんの生活で振り返るべきことがあるのではないのでしょうか。全く取り組みもしないで諦めていることはないのでしょうか。やらないのにできないと思っていることはないのでしょうか。



行動を起こすことが成功の鍵です。どんな時も絶対に諦めない強い心をもつことが生き方として必要ではないかと思います。

# 初めての防災宿泊訓練を終えて

7月27日（金）、28日（土）にかけて防災に関する宿泊訓練を実施しました。避難拠点運営連絡会、学校、区防災課、貫井町会が関わり、総勢約80名が参加する大規模な取組となりました。

区防災課、避難拠点運営連絡会が核となり、本校の柔道部の生徒全員（40名）が参加する試行的な取組として実施されました。

実施にあたり最も心配したのはそれまで連日続いていた猛暑対策。「あまりの暑さで生徒達が体育館で眠れないのでは。また、体調を崩さないだろうか。」と、心配は尽きませんでした。

実施にあたっては区防災課も「もっと多くの扇風機も持ち込みましょうか」など温かいお言葉をいただきました。予め学校側では、暑さからの避難場所として、さらに生徒や地域の方々、関係者が睡眠をとれる避難場所として第二技術室や図書室を想定し、体育館から移動できる体制を整えていました。

いくら訓練とはいえ、猛暑の体育館では寝苦しく、生徒たちだけでなく、参加された方々全員も一晩中眠れないのでは、と危惧していました。しかし、実施日は気温が30℃を下回り、凌ぎやすい状態となりました。

訓練は、午後3時30分にスタートしました。

まず、運営連絡会と生徒で受付役をやる生徒と避難役をやる人に分かれて受付訓練を実施しました。なかなか整然とした雰囲気の中で受付は進んでいきましたが、地震やその他の災害で実際に避難場所として学校が開放された際には受付の状況や雰囲気はどうなるのか。相当混雑してしまうのではという想像をしてしまいました。

開会式後すぐに起震車体験やシミュレーション訓練を行いました。特にシミュレーション訓練では、グループに分かれて明確な答えのない問題について意見交換する機会を得ました。災害時に柔軟な発想ができるようになるための訓練です。その後生徒達は庶務部、管理部、給食部に分かれて、防災時のスキルを身に付ける訓練に入りました。

庶務部の仕事は寝泊まりする体育館の区分け、情報掲示板の設定、毛布、寝袋、間仕切りの準備をしました。

管理部は、実際に発電機や投光器の作動、学校防災井戸の確認、組み立て式トイレの組み立て等の訓練を行いました。

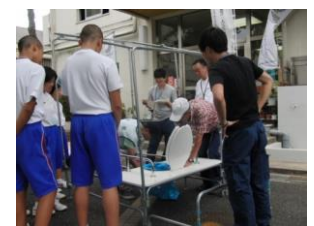
給食部は主に倉庫に備蓄されているアルファ米わかめ、うどんを活用して、当日訓練に参加している人たちのための夕食となる炊き出し訓練を行いました。

どの訓練でも避難拠点運営連絡会の方々から指導や助言を受け、生徒たちは大人のやり方を見よう見まねで学んでいきました。どの部署の生徒たちも真摯に取り組んでいる印象を受けました。

18:30以降は食事。食事を受け取った人から、それぞれまとまって摂りました。生徒の感想の中に、ご飯とうどんだと炭水化物ばかりだから「副菜がほしかった」と感想があり、思わず笑ってしまいました。純粋にふだんの食事をイメージしていたのだと思います。でも、実際に避難拠点での食事を想定すると、本当に居る人皆さんに食事がいきわたるのだろうか。なかなか想像が付きにくい感じがしました。

夕食後には実動訓練の振り返りを行いました。各部で体験した訓練について感想等を述べ、体験できなかった部署の情報を共有しました。

事後の感想には 今度は発電機を作動させてみたい、炊き出しをやってみたい、仮設トイレを組み立ててみたい。また、実際に仮設トイレを利用する訓練もしてみたい等の感想



もありました。このようなことから生徒の意欲的な取組の様子が見受けられました。さらには、意外だったと言ったら失礼に当たるかもしれませんが、アルファ米わかめ、うどんの食事が美味しかったという感想を述べる生徒が多かったことです。そういえば、余っていた食事を何度かお代わりした生徒も多くいました。さすが柔道部といったところでしょうか。



訓練の振り返りの後に「中学生に求められる災害時の行動」と題した講話を防災課の方から聞きました。

この話には生徒たちも大変興味があったようです。事後の感想には暗い最中に地震が起きた場合の訓練を試みたいや、地震はどのようにして起こるのかもっと知りたいなどの思いを記載していました。

その後訓練は学校内の夜間巡回、就寝準備、就寝となりました。特に就寝後はすぐに寝ている生徒が多くいたようでしたが、感想には体育館の床が硬くて、寝袋が窮屈でなかなか寝付けなかった。あるいは枕がなくて寝づらかった。という感想を述べていました。やはりふだんとは全く違う環境で食事を摂ったり、睡眠したりするということは生徒たちにとってかなりのストレスになったように思います。しかし、それは大人の我々でも同様の事だったと思います。



翌朝、6:00に起床。全体の片付け後に朝食用のクラッカーを配布。閉会式となりました。7:30には解散しました。

学校として初めての訓練でしたが、このような体験を少ない人数の生徒たちでも受けることに意義があると思いました。

体育館の床に窮屈な思いをして寝ること、避難拠点では何をするのか、どのようなお手伝いを大人たちと一緒にやっていけば良いのかなど、僅かずつでも体験していく生徒たちを増やしていく必要があると思いました。

学校としては「助けられる人から、助ける人へ」をスローガンにこの訓練に臨みましたが、道のりは長く険しいと思いました。しかし、光は訓練に取り組む子供たちの表情が明るく、前向きだったことだと思います。今後着実な一歩、一歩を重ねていくことが大切です。ただ、学校だけの力ではなく、地域、避難拠点、区役所、学校がしっかりと連携をする中で、将来に生きる人材を少しずつでも育成していくことが重要であると強く感じました。

最後にこの宿泊訓練の実施にあたっては、地域、避難拠点、防災課の方々等の多大な支援を受けたことに改めて感謝申し上げます。

## 下田臨海学校

今年も1年生の臨海学校が静岡県の下田市、少年自然の家ベルデ下田を宿泊施設として実施されました。

例年のことですが、出発前には学校プールで練習を入念に行いました。バディシステムを通じて、子どもたちは海での泳ぎ方とともに、安全への理解を深めながら一生懸命に練習を重ねました。今年は異常気象、猛暑、酷暑。



しかし、プールサイドで子どもたちに話を聞くと、「プールは気持ちがいい。」と元気いっぱいの返答でした。元気な声、きびきびした行動での練習を続け、7月30日に下田に向けて出発しました。

7月28日、29日にかけて、関東地方を台風が通過しました。貫井中の前のグループの学校は台風の影響を受け、5回の海で泳げるチャンスのうち、たった2回の水泳練習で終わ

ったとの連絡をもらいました。しかし、本校は大きな影響を受けることなく予定どおり浜での練習を進めることができました。

第1日目、到着後すぐに昼食をとって浜に向かって出発。天候は真っ青な快晴。じりじりと焼き付けるような暑さ。でも、生徒たちは元気いっぱいでした。

浜に到着後は、安全監視員の方々にしっかりとあいさつをしていよいよ入水。プールでの泳ぎとは違う感触をあらためて確認。ただ、例年使用しているよしずは、台風の影響で倒壊し、タオル等の荷物置き場の確保に苦勞しました。さらには体調不良者の待機場所となる日陰も確保できません。急きょ、熱中症対策として柱だけ残っていたよしずに、ブルーシートをかけてもらい日陰を設けて、待機場所を作りました。練習の最後に浜近くの丘に避難する訓練を実施しました。初日の晩ご飯のメニューはカツカレー。お代わりをする生徒が多く、頼もしく見えました。

2日目、生徒たちは今日元気もいっぱい。予定どおり浜で9時過ぎから練習開始。ところが台風の影響か、浜辺と海は、昨日とはうって変わり、ゴミが散乱していました。あのきれいだった下田の海はどうなったのかと思いました。が、ゴミが溜まっていたのは波打ち際。ちょっと沖に泳いで出るとそこはいつもの下田のきれいな海でした。

生徒たちは翌日の遠泳に備え、午前、午後ともに予定どおり練習を実施することができました。この間の天候は晴天。焼け付くような暑さ。でも海に入ると涼しく、生徒たちは気持ち良さそうに泳いでいました。

3日目、海は昨日と変わり、元のきれいな下田（外浦）の海岸に戻っている。あのゴミはいったいどこに行ってしまったのだろうか。

午前中に大遠泳を実施。指揮船から見る生徒たちは、快晴の下、懸命に泳いでいる。また、「エンヤコーラー！エンヤコーラー！」のかけ声にも一生懸命に応え、大きな声を出している。そして、今日も気持ち良さそうに泳いでいる。充実した泳ぎぶりでした。

午後は、中遠泳、小遠泳を実施。それぞれの泳力に応じた遠泳を実施し、全員が完泳しました。浜では、泳ぎ終わった生徒たちを互いに迎え合いました。

4日目、宿舍の清掃を念入りに行い、「立つ鳥跡を濁さず」の意識で3泊4日の日程を終りました。1年生らしい、元気な行動、挨拶、返事が目立った臨海学校でした。

宿舍での自治活動では、少しずつの成長をいろいろな場面で垣間見ることができました。その成果をぜひ2学期の学校生活で遺憾なく発揮してほしいものです。



## 部活動等の報告

男子柔道部…第37回東京都体重別柔道選手権大会、第67回東京都中学校対抗柔道大会

：平成30年7月24日(火)・25日(水)

結果：男子個人戦 81kg級 2年 第5位

女子柔道部…第29回東京都体重別女子柔道選手権大会、第22回東京都中学校対抗女子柔道大会

：平成30年7月24日(火)・25日(水)

結果：女子個人戦 40kg級 3年 第3位

卓球部…朝霞市ジュニアオープン卓球大会(学年別男女個人戦)：8月19日(日)

結果：1年 1年女子個人戦 予選1位、決勝トーナメント 第3位

吹奏楽部…第58回東京都中学校吹奏楽コンクール：8月6日(月)

結果：B組 銀賞

※今回は紙面の都合上、第2学期始業式後に表彰された生徒の結果のみお伝えします。この他の結果につきましては、次号でお知らせします。